

御嵩町新庁舎等整備事業

第三者検証委員会の調査報告書に関する町民説明会(質疑まとめ)

日 時:令和6年4月30日(火) 午後7時～午後8時

会 場:伏見公民館 3階大ホール

町民) 候補地の選定に当たって、これだけ莫大な費用がかかる場所が候補地となったことがどうしても理解できません。

町) 調査報告書では議会との協議調整の中で決定されてきたものとの評価がされています。事業費や造成費等も含め検証されています。

町民) 一般企業における事業の検討は、A 案 B 案 C 案といった客観的な比較表を作り、この案がいいというような方法で判断します。新庁舎の検討にあたっては、建物の構造、場所について客観的な比較表が必要だと思います。

町) 7ヶ所の候補地を選定した際に比較検討を行っています。その際には、災害へのリスク、造成費用、亜炭空洞の有無など様々な項目で比較、評価がされています。当該資料の公表については検討してまいります。

町民) 今後の進め方について「今回の調査報告書を重く受け止め、方針を決めていく」とあります。調査報告書では、今までの経緯に違法性はなかったとのことですが、半数以上の住民は、今までの進め方はおかしいと思って反対していたと思います。選挙で町長も議員も代わったので、このままどんどん進めるのではなく、もう1回意見をよく聞き取って対応してほしいと思います。

町長) 色々なご意見がある中で進んできたものであります。報告書においては様々な意見も付されており、今後は機能面も含めて皆様方のご意見もお聞きしながら進めていきたいと思っております。

町民) 報告書の中で、建物の構造について RC 造や S 造を検討するべきとあります。太陽光や蓄電池で災害時にも庁舎機能が維持できるように、また、受変電設備やサーバー類は上階に持っていくようにともあります。木造が本当に良いのか立ち戻って検討をしていただきたいと思っております。木造は、木の性質上、緩んでガタがくると思っております。

それに比べて鉄骨や鉄筋コンクリートは安定しています。地元の木材は、内装材や備品等に使って、隠れるようなところは質実剛健に考えてほしいです。今後の計画についても町民へ発信してください。また、現在の候補地は盛土により安全かもしれませんが、周りは水浸しになりませんか。周りが水浸しになってしまったら避難所にもなるホールまで行けないと思いますが、考えをお聞きしたいです。

町) 調査報告書の有識者の意見の一つとして、雨水はその場にとどまることなく、時間の経過とともに引いていくという意見が示されています。また、ホールに関しては調査報告書においても十分な議論がされていないとの意見も示されており、そもそもの必要性、避難所への適用性なども含め改めて検討する必要があると考えております。

町長) 今回の調査報告書の中でも耐火構造や準耐火構造をはじめ様々な要件が構造により変わってくることもありますし、木材の使い道なども検討しなければならないと考えています。調査報告書で指摘された内容、あるいは課題と思われる点についてはしっかりと議論を進めていく必要があると考えます。

町民) 平成 28 年当時は、議員さんも含め色々な場面で新庁舎の活用など、希望を持って語っていましたが、急に進まなくなってしまい、ショックを受けたところでした。現計画地は可見川近くということで心配もあるとは思いますが、平坦で水害の心配がない場所、さらに亜炭廃坑もない土地は町内にはなかなか無いと思っています。町の負の遺産でもある亜炭廃坑は、対策にお金がかかるし気にされる方も多いです。亜炭廃坑とどう向き合っていくかは大きな課題だと思います。その中で新庁舎が御嵩町のまちづくりの起爆剤になればとの思いがあります。ただ、新庁舎の話をしていくうちに、ホールも欲しい、せっかくなら豪華にしたいということでは、お金がかかりすぎてしまう。今後少子化が進む中で、費用面はよく考える必要があるかと思っています。

町長) 庁舎の大きな目的は、やはり安全と安心の拠点であるべきだと考えています。一つに周辺地域はどうなのかということ。その点については庁舎の役割、地域防災、あるいは土木造成の部分、先ほどの可見川という話もありましたが、それらを含め考えていかなければならない点だと認識しています。もう一つは、際限なくお金をかけることは本末転倒だということ。どのような金額をどこにかけて、どういう効果をもたらすのか、費用対効果の観点からしっかり検討していかなければならないと思っています。

町民) 事業費が最終的に 78 億と積み上がり、それが私たちにとっては一番大きなダメージです。説明を聞いておりますと、現計画地が非常に軟弱な土地であり、造成にお金がかかる。それをやろうとすると軍艦作りの建物になってしまうわけです。下ばかりにお金がかかり、肝心な建物にお金が回らないというような意味で、これは大変だと。もう一つは、アクセスの面。現計画地と私たちが住んでいる間には可見川があるわけ

であり、今、一番大きな橋は1本だけです。災害が起きたときのことを考えると、少なくとも4本ぐらいは必要になってくるのではないですか。そうすると、それに関する費用もまた必要になるわけであり、あまり話に出てきていません。何らか判断していかななくてはいけないわけです。もう一度よく検討してほしいです。

町民) 今後、人口が減少していきます。消滅する可能性がある自治体も数多くあり、隣には人口10万近いような市があります。その中で、予算をかけて新しい庁舎を建てるということに対する町の考えをお聞きしたいです。

町長) 人口減少という中で、先般、新聞報道でも消滅が危惧される市町村が紹介されました。当然、御嵩町も考えていく必要があるわけではありますが、その中で庁舎に求められる役割や機能については、安全安心の面で削れない部分も当然でてきます。このような面も踏まえ住民サービスを維持していかなければならないと考えています。現在の役場庁舎は耐震性が限りなく低く、非常に危ないと言われていています。町民の安全安心を確保していく中、その方策として規模感についても削れない部分はあります。サービスを落とさない、維持していくことも念頭に検討していく必要があると思っています。

町民) 財政の関係ですけど、費用がどれだけかかるかはこれからの状況次第ですが、人口減少、そして高齢化がますます進んでいきます。そういうことになると住民税に影響するのでは。固定資産税は一定程度入ってくると思いますが、いわゆる指数で示されても、素人にはわかりません。例えば10年20年30年ぐらいの人口推移の見通しと、税収面から町民1人当たりの庁舎費用がこれだけになってくるというような具体的な数字を示していただきたいです。

町) シミュレーションも含め検討してまいります。